

## 平成30年度第3回 伊那市総合教育会議会議録

- ◎招集年月日 平成30年11月28日(水)
- ◎開催日時 平成30年12月11日(火) 午後3時30分～5時6分
- ◎場所 伊那市役所 庁議室
- ◎出席者 白鳥市長、笠原教育長、北原教育長職務代理者、宮脇教育委員、田畑教育委員、原田教育委員
- ◎欠席者 なし
- ◎出席職員 馬場教育次長、吉田学校教育課長、小松生涯学習課長、捧文化振興課長、宮下スポーツ振興課長、中村指導主事、北澤指導主事、山崎教育総務係長
- ◎出席関係者 西春近南小学校柳原教頭、伊那西小学校千賀教育コーディネーター

### 1 開 会

馬場教育次長

こんにちは。時間になりましたので、伊那市総合教育会議、今年度第3回目になりますが、始めてまいりたいと思います。初めに市長からごあいさつをお願いいたします。

### 2 市長あいさつ

白鳥市長

こんにちは。12月に入ってこのところ寒い日が続いておりまして、私、先日新潟の方に行く用事があったんですが、県境は30cm以上の積雪ということで、少し移動ただけでこれだけ違うのかなあという思いもしました。これから本格的な冬になりますので、体調管理、特に子どもたちのインフルエンザ等心配でありますので、そんな管理にも十分お気をつけいただければと思います。最近、長谷小中学校の共同調理場が全国で優秀賞、また、栄養士が最も高いキッコーマン食育特別賞というトップの賞をとったということで、第1回の給食甲子園、実は長谷共同調理場が最優秀でありました。それに続いての快挙ということで、食に関して私たちが取り組んでいるひとつの姿が高い評価を受けたということで、大変うれしく思っています。また、一方では、11月の4日でしたけれども、第1回の伊那市中学生キャリアフェスが大変賑わい、盛り上がりをもって所期の目的どおり開催できたのかなと、協力いただいた方に感謝申し上げたいと思います。今日、この話題が出る訳ですが、参加した中学生、また、企業のみなさんから「ぜひ来年もやってほしい。」と非常に強いお話をいただいております。こうしたことを繰り返して子どもたちに地域のこと、また、仕事のこと、地域を支えていく気持ち、そうしたことを、繰り返し繰り返し伝えていくことが、この地域にとってどんなに大事なことかなと改めて思った次第であります。それに加えて、由紀さおりさんと安田祥子さんの姉妹が伊那中学校に来て、童謡とか日本語の美しさ、また、歌を歌ってくれたということがニュースになりました。伊那の教育が順調に動いているなあと思っていますし、これが到達点ではありませんので、さらに日本を牽引するような、ちょうど江戸末期から明治の時代の進徳館の姿に重ね合わせて、伊那が進むことを願っております。今日の会議が活発な会議になりますようお願い

い申し上げましてあいさつとします。

馬場教育次長

ありがとうございました。続いて、教育長からお願いいたします。

### 3 教育長あいさつ

笠原教育長

こんにちは。師走もどんどん日が過ぎて10日が過ぎました。時が走っている、そんな気がしているところです。本日は10月に続きまして、第3回の総合教育会議の開催、大変貴重な機会と考えているところでありまして、ごあいさつ申し上げます。

この時期、それぞれの学校が今年はこのことに取り組んできたことが具体的に成果として見えてくる、そんな時期だと思っております。市は、教育にかかわる諸事業を非常に積極的に展開していただいているところでありまして、今日も柱に据えさせていただいております、例えば、ICT教育、あるいは、小規模特認校の取組、今、市長お話ございましたけれども、キャリアフェス、「暮らしのなかの食」にかかわる取組など、市長のお考えをお聞きし、また、教育委員のみなさまからもお考え、思いについて直接関わっていただきながら、そうした取組がございますので、ぜひお出しいただきながら、市の教育の推進に大きなお力添えをいただきたいものであります。市長部局、そして、教育委員会が一層連携を深めながら、「歴史と文化を未来につなぐ心豊かな人を育むまちづくり」につなげていければと思うところであります。どうぞよろしくお願いいたします。

馬場教育次長

それでは、協議事項に入りたいと思います。ここからは市長の進行でお願いいたします。

### 4 協議事項

#### (1) ICT教育について

- ・ ICT機器の活用に係る現場での取組
- ・ 機器の活用状況

白鳥市長

それではお願いします。最初の協議事項として、ICT教育について、今、iPadだとかいろいろな機器の導入状況と成果、効果、課題を最初の協議事項としてお願いしたいと思います。

馬場教育次長

それでは、ICT機器の現場での活用状況の取組につきまして、西春近南学校の柳原教頭先生から、現場の取組状況についてお話をいただいて、後ほど資料等の説明を行いたいと思いますので、お願いいたします。

パワーポイントの資料に基づき、西春近南小学校柳原教頭説明

白鳥市長

今、発表いただきました。機器の整備状況については、この後になりますが、今の説明について、ご意見ご質問があればお願いいたします。

機器が大分入っているんですが、活用については修練を重ねてだんだんレベルが上がってきているという理解でよろしいんですか。

西春近南小学校柳原教頭

はい。職員もいろいろな研修を通して指導する面でも、また、子どもたちもどんどん慣れてきています。

白鳥市長

i Pad の数が足りないとか後ほど出てくるんでしょうか。

西春近南小学校柳原教頭

はい。今、ひとクラス分の最大人数があります。本校は先生方が結構使っておりますので、2クラス分、3クラス分あるとかち合わなくていいかなという願いはありません。

白鳥市長

もうひとつ、電子黒板と書画カメラの活用は授業の中でかなり進んでいますか。

西春近南小学校柳原教頭

本校ではすべての職員が朝来た時にスイッチを入れて、1日のなかのどこかでは活用しています。

白鳥市長

その効果というか、授業の準備時間が短縮できるとか、理解度がより増しているとか、その辺の感想はありますか。

西春近南小学校柳原教頭

働き方改革ということで、教材づくりの部分で、書画カメラでノートをそのまま写したり拡大したりということで、かなりその部分でも、働き方改革になってきていると思います。

それから、子どもたちの理解度ですけれども、i Pad というと一人でやるような感じがするんですけれども、グループでやると教え合ったりとか、そこでいろんなことが生まれて話が深まったりとかいうことがあるので、そんなところを大事にしています。

笠原教育長

これは質問なんですけれども、先生方の気持ちの持ちよう、今、話の中で既に触れてくれているんですけれども、教頭先生、昨年、今年、どんなふうにご覧になっていきますか。

西春近南小学校柳原教頭

昨年、最初の時には、「えっ」という感じで、ご年配の先生もいるんですけれども、

「そんなの、これをやっていくの。」っていう感じだったんですが、一番は市の方で支援教員と支援員を派遣してくださったということで、困ったときにはいろいろ聞いたり、定期的に来てくださるので、そこで聞いたりして、先生方、全然使ったことがなかった先生もはまって行って、今は普通に授業で使うようになりました。最初はそういうふうで、そここのところが大きいなと感じました。

笠原教育長

支援スタッフのことをもう少し具体的に話してください。

西春近南小学校柳原教頭

今、東部中の足助先生、川島さんに来ていただいているんですけど、毎月予定に入れて訪問していただいたり、実際に困ったときとか、担任の方でこれをやりたいんだというときには、あらかじめ計画を入れて来ていただきます。そこで授業を一緒にやっていただいたり、補助的に入っていただいたりすることもありますし、機器のことについてもやっていただいています。あと、授業の補助とか、アドバイス、こんなことに困っていると言うと、こうしたらどうですかというアドバイスをいただいております。

北原教育長職務代理者

2つ目のシートのところに3点上げていただいたんですけど、今後活用していくうえで、「子どもたちの学びの広がり」と深まり、このことを目的にしているんだということを第一義として外さないことが大事だなあ、このことが各校で実践していくときにも大事にしていきたいと思って、そこにつながって内容が深まっているなあと思いました。

もうひとつ、今回の実践の中でドローンを使った授業があったんですけど、これ、多分8月か9月の授業ですよ。

西春近南小学校柳原教頭

季節によって変わっていくという様子です。

北原教育長職務代理者

左が8月で、右が9月で、9月になったら茶色のところが緑になっちゃった。これを子どもたちが頭のなかだけで考えたりしているとしたら、この問題の解決はできなかったと思うんです。これはそば畑でしたっけ。

西春近南小学校柳原教頭

子どもたちが見たところは田んぼです。

北原教育長職務代理者

これは田んぼですか。

西春近南小学校柳原教頭

授業で見たところは、そば畑でした。

北原教育長職務代理者

そうですね。それが子どもたちの日ごろの体験と3次元の空間から見たものが一致して、土地利用の学びが深まっていくという素晴らしい場面に出会わせていただいたんですけれど、そういうことを考えると小中学校の願いが一番最初のところの「子どもたちの学びの広がり」と深まり」から外れていないということが一番大事だと思いました。

白鳥市長

ほかどうでしょうか。

白鳥市長

課題はどうですか。

西春近南小学校柳原教頭

ひとつは従来の指導、例えば、黒板の使い方、そのところを職員のなかではより効果的な方法がないかとか、半分近くは画像でとられてしまうんですけれど、そこをうまく、画像と板書、それと、意識改革もまだこれからどんどん進んでいきますので、どういうふうに研修をしていっていいか、ただ、あまり研修研修だけになってもいけないので、そのところが課題になってくるということと、子どもたちが興味を持ってやるんですけれど、やはり先ほど北原先生がおっしゃった、目的をどこに持っていくのか、そこがぶれてきたり、ただ、機器をいじって終わりというのがこれからよく考えていかなければいけないと思います。

白鳥市長

今、伊那市は、自動運転とかドローンとかAIを使った自動配車サービスとか、あとスマート農業で省力化していくとか、林業関係でもドローンの活用とか、スマート林業、いろんなことが始まっているんですけれど、そんなところに子どもたちは興味を持っているようですか。

西春近南小学校柳原教頭

そうですね。子どもたちはドローンに興味を持ってやっています。自動運転について、本校はちょうどNIE、新聞の活用をやっているし、長野日報さんとか新聞をいただいているので、そこでよく1面に出てくるので、スクラップづくりで取り上げたりはしています。興味はかなりあるようです。

白鳥市長

新しいこと、人工知能だとか、機器を使っていくなかで、子どもたちにも普通のこととして入っていけばいいかなあと思うんですが、そうした時代の流れに置いていかれないように、自分たちも常に勉強していくということで進めてもらえればいいと思います。

西春近南小学校柳原教頭

ありがとうございます。

白鳥市長

ほかよろしいでしょうか。

宮脇教育委員

i Pad をいじって終わりじゃあ困るという話もあったんですけど、ある部分、子どもたちが新しい使い方を自分で考えていくという形、こちらから与えるだけじゃなくて、子どもが自主的にやる部分を全くゼロにしちゃあもったいないと思うので、新しい子どもたちの新しい考え方を活かせる部分も少し余裕を見て、あまりぎちぎちこういう成果をとというふうにもっていかないほうがいいかもしれないという気がします。

西春近南小学校柳原教頭

ありがとうございます。

白鳥市長

ほかどうでしょうか。

原田教育委員

いろいろな問題というわけではないでしょうけれど、こういう使い方をしたらすぐよかったとか、そういう事例的なものは発信されているのでしょうか。

西春近南小学校柳原教頭

発信というのは、PTAとか、今度も「子どもを育てる会」がありますので、そのところでしっかり地域には紹介したり、保護者にも紹介してやっています。

原田教育委員

そうすると、例えば、先生方から「よくある質問」みたいなものを作っていることはないのでしょうか。先生たちが共有して見られるということはないのでしょうか。

西春近南小学校柳原教頭

はい。そこはやっておりませんが、学校だより等で発信しています。

原田教育委員

わかりました。

田畑教育委員

先生たちの独自性のある授業プログラムで使われると思うんですが、働き方改革の一環で誰かが作ったプログラムがデータで保存されていて、授業展開するというモデルがほかの先生が同じようにやりたいと言ったときに、タイムスケジュールから提示できるものまで、ある程度利用できるフォーマットがあればそれをみなさんと共有して、さらに、ベースにしなごらほかの先生が自分の判断で差し替えたりということができれば、授業のサポートになるように、やった授業が全部残っていく仕組み、さらにそれを自由に利用できて、改善改良できるスライドだったりそうしたフォームを残していくことが一つの大きな財産になると思うので、その辺を管理しながら、みんなが自由に活用して残していけるような仕組みをこれを基に作れると、また一段と深まって

いくのかな、先生たちも見直しになるのかなと感じました。

西春近南小学校柳原教頭  
ありがとうございます。

北原教育長職務代理者

もうひとつ、今、ドローンの話が出たんですけれど、子どもたち、大変興味を持って取り組んでいるんですが、去年の長谷小、今年の手良小でプログラミングという形でドローンを動かすという活用があると思うんですが、もうひとつは、今回、西春近南小学校で行った定点観測で月ごとに撮って行って、自分たちの地域を見る、地域を知るという見方で非常に有効だと思うんですね。ただ、今回の場合は信大さんで撮ってくださったんですね。こういうことが各地できるといいなと思っています。

白鳥市長

今、市の職員でもドローンの免許を取った職員が建設課とかに2人くらいいるので、危機管理の方でも資格を取っているので、そういう職員に頼めばいい。

北原教育長職務代理者

そうですね。この間お聞きしたら取得費が30万円くらいかかると言っていましたし、キャリアフェスに見えた諏訪の方でしたけれど、「最近では4Kで撮るのですごくきれいに撮れるんだ。」と言っていました。

白鳥市長

それでは、導入状況、活用状況を、資料1と2の説明をお願いします。

資料1-1、1-2に基づき、吉田学校教育課長説明

白鳥市長

これから先生のところにもiPadが行き渡っていくということですね。

吉田学校教育課長

はい。ご覧いただくように31年度以降リース切れというものが出てくるので、これまで使っているiPad、リース切れになったものを市の方でそのまま使用させていただければ、先生のものということで活用できるのではないかと考えているところです。

白鳥市長

はい。今の説明で何かご質問等あればお願いします。

全委員（なし）

白鳥市長

なければ、予定どおり進めていただくということでお願いします。

白鳥市長

それでは、伊那西小学校の小規模特認校についてお願いします。

馬場教育次長

柳原教頭先生ありがとうございました。

続きまして、これまでの取組と次年度に向けた取組ということで、伊那西小学校の教育コーディネーターの千賀先生からお願いいたします。

(2) 伊那西小学校（小規模特認校）の取組について

- ・これまでの取組と次年度に向けた計画
- ・学校林の整備計画
- ・小規模特認校としての取組

白鳥市長

それでは、伊那西小学校の小規模特認校についてお願いします。

資料、映像に基づき、伊那西小学校千賀教育コーディネーター説明

白鳥市長

今、説明してもらったんだけど、まさに思い描いている世界に近づいているなあというか、いい形で動いているなあと思って聞いていました。森林整備については、絶対やらなくてはならないので、危険木の伐採については、今年の冬、もう決まっているの。

吉田学校教育課長

はい。決めてあります。

白鳥市長

あと、1600本の樹種を調べたというんだけど、実はドローンを使ってやるという手もあるんだよね。ドローンでいろんな木の種類を把握できるんだよね。今、実践で森林組合で使っているんだけど、5ヘクタールくらいの山であれば、15分で全部データを取ってきて、アカマツだとか1本1本の高さだとか、体積だとか、番地とかどこにどんなものがあるか全部把握できる、そういうソフトを開発してもらって、実践で自分たちでやったというのと、アカマツ、カラムツ、桜とか、それを全部データ取りして、それと照らし合わせるという、今の技術も子どもたちにわかるようにしてできる。

千賀教育コーディネーター

それはお願いすれば可能なんですか。

白鳥市長

金がかかるので、どうするかという問題ですね。それはすごい教材になると思うよ。横に松枯れの林があるじゃない。

千賀教育コーディネーター

あります。

白鳥市長

松枯れか、感染しているのか、あるいは健全なのか、データで取り込めるようになっているんです。これも信大の加藤先生が開発したレッドエッチというところで判断してく。それで松枯れのところもデータ化できるし、樹種から、高さから体積から番地まですべて把握、管理できるソフトがあるので、やってみたらいいかもしれない。それで、全体が把握できたら、これは何年生なので切っていいなとか、さっき皆伐の話が出たけれど、どういう森が始まるのか、どこに充てるのかということもデータからみんなで検討してみてもいいし、間伐をしたときにそれはどこに使いましょうとか、そんな学習にも使えるんじゃないかね。

これ、ドローンのデータ取りを考えてみてよ。これ、すごい面白いと思うよ。学校でやるのは初めてだと思う。1.6ヘクタールだったら5分かそこらでできると思う。

千賀教育コーディネーター

力が抜けてしまいました。寒い中、暑い中、全部番号を取って、樹形を1本1本全部取ったんです。

白鳥市長

森林組合の山の管理をするみなさんは、5ヘクタールあると、3か所くらいプロットして、胸高直径を調べたり樹種を調べたりして、3か所くらいデータ取りをして、面積をかけてながらアカマツは何本、何m<sup>3</sup>、カラマツが何本、何m<sup>3</sup>ありますよというやり方を今までやっていたんですよ。5ヘクタールだったら3人で5日かかるんだよ。それをドローンだと15分で全部やっちゃう、そういう時代なんだよ。

千賀教育コーディネーター

聴いてがっかりしてしまいました。

白鳥市長

基礎データとしては、いいものだと思う。

馬場教育次長

伊那西小は学年にICTの機器も全部整備されているので。

白鳥市長

みんなで共有できる。学校林の全部の状況を。これいいね。ちょうどいいな。

馬場教育次長

ICT教育も含めて。

千賀教育コーディネーター

ICTもすごいです。

白鳥市長

伐採するとかいうと地域のみなさんの意向もあったり思いもあるので、上手に話をしながら進めてもらえばいい。

白鳥市長

意見があればお願いします。

宮脇教育委員

これについて、保護者のみなさんにはどんなふうな形で伝えているのか、また、保護者からどんな反応がありますか。

千賀教育コーディネーター

実は、これまで地域説明の折に保護者も一緒に、伊那西ではこんな特認校になったので、こんな形の教育課程で行っていきますよということで、1回説明しました。森林についても整備が必要であると話をしました。それが1回目です。2回目はちょうど昨日やったんですけど、地域のみなさんにご案内を出して来ていただいています。

ただ、いつも集まる人数が少なく、昨日も20名くらいだったんですけど、一応そうした場を踏んできています。これをまた学校でまとめて地域へ発信しています。来られる、来られないにかかわらず、保護者の同意を得ながら進めていく。一番大事な部分ですので手順だけは間違っただけだと思っています。

白鳥市長

ほかどうでしょうか。

北原教育長職務代理者

質問ですけど、教育課程編成上でかなりいい取組がたくさんあるんですけど、困ったなあとか、今後壁に突き当たりそうだとか、思われていることはありますか。

千賀教育コーディネーター

時間数の取り方です。例えば、この自然観察プログラム、とってもいい内容なのでやりたいなと思うんですけど、理科のそうした分野がありますので、そこからもらってくる部分もあるんですけど、そこがなかなか難しい部分があるんです。どこでどうしようかと思ったときに、例えば、1年生はタケノコ取りをしました。2年生は梅の実を取りましたとか、3年生はタラの芽とか決まった活動があるんですよ。本当にこの決まった活動をやることが子どもの科学の目を伸ばすことにつながるのかにうんと疑問を感じていて、1年生だからそれをするんじゃなくて、子どもたちが林を駆け回ったときに、「おい、タケノコがあるぞ。おもしろそうぞ。」と、例えば、そうしたことこそ本物の教育だと思ったときに、今ある活動を見直していく。例えば、シイタケの菌打ちを取ってみても、丸1日やっているの、そうしたものも一切見直してやめちゃって、そういう時間をうまく使う。恵みの森なので、シイタケについても縮小しながら、学校の中でほかの学年で考えられるところでやっていく、そこら辺の時間が課題になっています。

北原教育長職務代理者

はい。

白鳥市長

特認校でその教育を受けたいとみなさんが来るのが理想なんだけど、例えば、新山小学校の場合には3年目くらいからようやくそんな動きが始まってきたので、伊那西の場合は始めて間もないので、焦らずにやっていくのがいいのかということと、どうしても情報の発信だけはやっていかないと、それで、うちの場合、小学校が15校あるので、そこのホームページにみんなが見に来るわけではないので、統一して伊那市のホームページの中で、小規模特認校の自然に関すること、新山小学校のところ、特色を前へ出してやっていくということをしていかなきゃいけないと思う。これ、すごいと思うよ。東京大学の先生が授業している小学校なんて全国にないよ。信大の先生のOBが手取り足取り虫の話をしてくれたりとか、普通でない小学校の教育なので、しかもその辺の農家のおじさんが来て話をしてくれるとか、これはすごいことだと思うので、上手に発信してもらえればと思います。

吉田学校教育課長

はい。

白鳥市長

ほかどうですか。

全教育委員（なし）

白鳥市長

地元への説明と自信をもってやってもらうということで進めていってもらいたいと思います。記録はきちんと取っておいてもらって、どこかで発表する場があると思うんだよね。

千賀教育コーディネーター

これは、岩崎先生からいただいたもので、それから「野外で算数」というのがあるんですね、スウェーデンで作って、ようやく日本語版ができたそうなんですが、とても勉強になっています。あと、研究室の研究材料でこういったものもの、これがかなり使えるかなと思っています。

白鳥市長

高遠北小学校がまさにそれなんです。1年生から6年生がそばを蒔く、ネギだとかカブだとか、「この面積の畑にどれだけ蒔けばいいの。」って言うと、計算が始まるんだよね。一つの面積に何粒いるので、何キロ必要だというような計算が始まったり、そうした展開がまさにできると思うし、そういうのが実践の中の本当の教育だと思うんだよね。ありがとうございました。

資料No.2-2に基づき新山小学校の小規模特認校制度活用の経緯について、吉田学校教育課長説明

白鳥市長

どこかで公開授業で、全国へ発信できるようなことをやってもいいかもしれないね。

吉田学校教育課長

はい、そうですね。

千賀教育コーディネーター

この間、売木小中学校、あそこは山村留学をやっているのだから、村をあげて公開授業をやっています。だから、覚悟を決めて伊那西小あたりでやってみたいなんていうことは校長とは話をしています。まだ時期は早いと思います。

白鳥市長

経験とかいろんなデータを繰り返してみても、大体の姿が見えれば、先々こういうふうにして持っていきたいとか、課題を出し合うことでもいいと思うし、1年くらい経ったところでそうした公開授業みたいなものを作るのも一つだと思うし、すぐ横にハウスがあるよね。あそこは日本を代表するトマトの会社なんだよね。あそこを見せてもらおうと先進技術がトップクラスなんだよ。液肥の配合だとか、二酸化炭素の量だとか、温度だとか、完熟度の状況だとか、科学的に全部管理しているという、そうしたものを見ることが出来る場所なんだよ。教材は周りにいっぱいあるので、上手につながりをつけて、やれば良いと思う。

(3) その他

①第1回伊那市中学生キャリアフェスについて

- ・まとめと振り返り
- ・教職員の関わり

資料No.3-1に基づき、吉田学校教育課長説明

白鳥市長

キャリアフェスの反省も含めて、感想の中で特に否定的な話も出ていなかったけれどなかったの。

吉田学校教育課長

一番は先ほど出ていたように、電源ですね。そういうことだけでした。

白鳥市長

先生たちはどうだったの。

吉田学校教育課長

先生方もやってよかったという意見が多かったんですが、一部の生徒がいつもよりスカートの丈を短くしていたというような、先生にとってちょっと注意したほうがいいなというところはあったんですが、食べながら聞いているのはいかがなものかというような意見もありました。

白鳥市長

趣旨を理解してくれればよいよね。

田畑教育委員

先生たちは、生徒指導の目線で見られるので、食べ物をもらってワーツと帰るときに、「お礼ぐらい言えよ。」とか、あいさつで、話を聞いたら「ありがとう。」と言えとか、対外的に大人の人たちに対するマナーとして、身につけさせていきたいという話が出るんですけど、でも、子どもの感想を見ると、こちらがお礼も言っていないのに、大人の方から、「聞いてくれてありがとう。」と言われたという感想もあつたり、先生からもありましたけれど、「ありがとう」と言えと言われて言った「ありがとう」と、全くそんなこと気にしていないのに、何となく、全部終わったら自分はありがとうって一言も言っていないのに、「見てくれてありがとう。」と言ってくれた大人の一言が心に残ったという「ありがとう」の方がよっぽど心に残る「ありがとう」になっているということ、生徒指導の観点も大事だけれど、先生にも感じてもらいたいと、みんな大人も思っていたと思うと、よかったのかなと思います。先生たちのそうした感想も大事に受け止めるんですけど、実行委員みんなで思ったのは、大人が本気、ピカピカしていると子どもがそこに触れて、何となくいつもとは違う光が出て、場の力をみんなで信じれる、そんな時間にできれば、そこさえぶれなければ、そこで起きてくることで「ばっか小僧」って言う大人がいてもいいと思っていて、まさに大人と子どもが同じ目線で同じ時代を生きてぶつかり合う場所としては、いろいろなことが起きてきていいのかな、そこは許容できる。

白鳥市長

ほかの委員の方は感想とかどうですか。

原田教育委員

わたし、地元が伊那ではないということがあるんですけど、まじめでない企業ってそんなにないと思うんですけど、伊那の企業ってまじめにやっているという印象がすごくあって、特に飲食店さんとか、飲食店に食べに行くときに本当に厨房で作っているかというところ、そうでもないところがほとんどだったりするんですけど、伊那って比較的まじめに作って出している、当たり前じゃないんです。そういった飲食店さんも多くさん出てきていて、そういうところに子どもたちが触れて、東京ですとか、都会に出ていったときにバイトすることもあるでしょうし、いろいろあると思うんですが、キャリアフェスの時の人たちとちょっと違うかもって思うかもしれないですよ。そこで伊那っていいなと再発見することがあるんじゃないかと思います。

白鳥市長

ほかにどうですか。

宮脇教育委員

本当に良かったと思います。中学生が楽しんでもくれたのが一番だと思う。やっぱり楽しい思い出がないと絶対戻ってきませんので、楽しい思い出がひとつできたというのが良かったと思うし、音響だけはしょうがなかったところですけど、あれは残念でしたよね。

白鳥市長

あれはね、ダメなんだよ。

宮脇教育委員

まあ、本当に良かったと思います。

笠原教育長

私、今回、この取り組みを通して地域の大人のみなさんの思いや願いの中に子どもたちがいて、学ぶことができる幸せを一番実感としてありました。そういう意味で貴重な機会だったと思います。

北原教育長職務代理者

子どもたちが本当に魅力ある大人に出会えるとか、あこがれる人とか職業に出会って、やる気を出すとか、命の火に点火する、そういう瞬間って、子どもたちにとって非常に大きな経験だったのでないかと思いました。

白鳥市長

担当は、本当に準備から大変だったと思うんですけど、それ以上の成果、結果が出ているので、手を抜けることは抜きつつ、出すところは出して進めていただきたいと思います。

それでは、次の議題、「暮らしのなかの食」について、これまでの経過と取組状況と今後のあり方についてお願いします。

②暮らしのなかの食について

- ・これまでの経過と取組状況
- ・今後のあり方

資料No.4-1、4-2に基づき、吉田学校教育課長説明

白鳥市長

「暮らしのなかの食」5年が経過して、それ以前に2年間ほど準備期間がありましたので、7年ほどやってきているということでそれなりの成果も出てきていると思いますが、今後の課題として、講師が別の人を考えるのか、あるいは、実践事例発表会もこのままやっていくのがいいのか、そんなことが上がってきておりますので、1回立ち止まって、方向を見る時期かと思います。ただ、この「暮らしのなかの食」は子どもたちにとってみると、大事な取組だと思っておりますので、これそのものはやっていきたいと思うんですが、時間の確保が難しいというような課題に差し掛かってきていますので、このことを含めて意見ををお願いします。どうでしょうか。

白鳥市長

学校現場の方で北澤さんどうですか。時間の確保が難しいという現実的なところは。

北澤指導主事

畑の方は見ていないのでわからないんですが、確かに学校で新たな教科が入ってき

て時間的な余裕はないと思います。

中村指導主事

私、小学校で畑を見させてもらっているんですけど、朝の時間を畑の時間に使っている学校はたくさんあります。畑を見てきてそのあと、マラソンをして読書だと、朝の時間が忙しく使われるようになって、登校してから仲間同士でサッカーで遊ぶとかいう時間が取れないなかで、さあ、いきなり1時間目の授業だよと、それと、教科のなかで、外国語の学習が入ってきてしまって、時数が増になってしまったんです。で、その時間を取って行くと、今まで総合の時間や清掃の時間をカットして、畑の時間としてうまく回っていたんですが、それが取りにくくなってきたかなとは思っています。

白鳥市長

学校によって工夫している事例があれば参考になる。

中村指導主事

帯で取ってもらって、読書やドリルと同じように畑の時間を帯で取っている学校もあって、学校のカリキュラムのひとつとしており、子どもたちがあまり負担を感じずに取り組んでいる。今度英語が入ってくるので確認できていないんですが、週の中で全校でこの日のこの時間は畑の時間にしましょう、または、学年の畑の時間にしましょうということで動いている学校もあって、そのカリキュラムの中に入っているのも、無理なく進んでいるかと思いますが、天候に左右されることがあって、その日にできればいいですが、できないと組み合わせが難しくなってくることがあると思います。

白鳥市長

どうでしょう。ほかのみなさんの意見とか、思いがあればお願いします。

宮脇教育委員

立ち止まる時期かということもあると思うんですが、まず、一番最初に「学校給食あり方懇談会」の向山孝一さんや藪原先生、みなさんと話し合った大元のところが、実は当時の校長先生とか皆いなくなってしまうので、当然新しい校長先生はそういうところをあまり知らずに引き継いでいる部分があると思うので、一度、どういう思いでこれを始めたのかというあたりを、新しい校長先生方には知っていただいて、そのうえでどういうカリキュラムを組んでいくのか検討してもらうのがいいのではないかと思います。当時の校長先生たちは一生懸命やってくれたんですが、転勤とか定年で代わってしまった新しい方なので、引き継いだことしかわからないと思うので。

白鳥市長

一番の原点は何だったのかというのは、資料はあるよね。

吉田学校教育課長

はい。あります。

白鳥市長

それをまた、校長会などで話をするか、僕の方でもいいし。

宮脇教育委員

多分、そこを抑えておいて、考えていけば間違いはないと思います。それがなくなって、ただただ畑をやるってことになる、目的がずれていってしまう。

白鳥市長

そうだね。いい意見です。そのとおりです。

北原教育長職務代理者

あわせて、もうひとつは実践発表をしてきたんですけど、発表が点になっていて、面になったり一つの柱になっていなかったかなというのが、私自身の反省なんですけれど、そういうことを考えると、短い時間でもいいんですけど、今回の実践発表でも今回のようなねらいと、それから、これまでの実施状況を見ると全部イメージが浮かぶんですけど、宮脇委員さんの言うように浮かぶ人が少なくなってきて、今年のものわかるけれど、本当にこうしたところで学ぶものはたくさんあると思うんですよ。例えば、2年目、27年に発表していただいた伊那東小学校は畑のないところを開墾したり、それから、肥料袋や近くの田んぼを活用した子どもたちの営みであったりとか、高遠小で麦を始めてこれがだんだん饅頭づくりに発展していくとか、北小は先ほど市長からお話がありましたけれど、そばづくりに発展していく基になったんですが、一番最初に内山先生がお越しになったときに田んぼを見て「野菜が雑多に植えられている。これが素晴らしい。」と言っていました。「害虫対策なんだ。」と。こういうことがなかなかみなさんのところに伝わっていかなかった。是非大事な部分を伝えていきたいかなあ。だから、子どもたちが折れた大豆を抱えて涙を流しているところもそうなんです、そうした場面がたくさんあります。要点的でいいと思うんですけど、ここで得られたことと今後ということで、お伝えしたいかなあと思いました。

白鳥市長

はい。伊那市の場合は保育園で、「がるがるっこ」という取組をしていたり、自然の中の不思議さを体験・体感できるようなプログラムを作ったりしている。それが1年生に入ったりして継続できるひとつが「暮らしのなかの食」でもあるので、そうしたつながりというものをもう一度確認しながら、原点に戻しながらやっていくということをお願いしたいと思います。

まだ、ご意見はあろうかと思いますが、時間ですので、また違う場面で出していただくとしまして、予定の時間を過ぎてしまいましたので、今日の議題については以上としまして、全体を通じて何かありましたらお願いいたします。

全委員（なし）

白鳥市長

それでは、今月の総合教育会議を以上で終了とさせていただきます。  
お疲れ様でした。